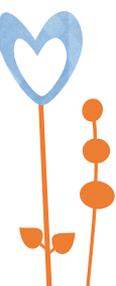
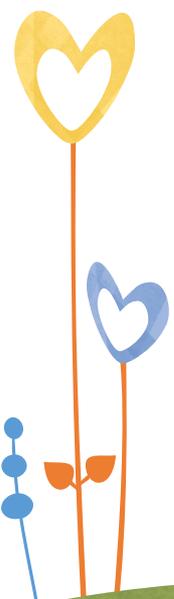


子どもの心身の発達と保育

精神保健（子どもの健康管理）

茨城女子短期大学 安藤みゆき

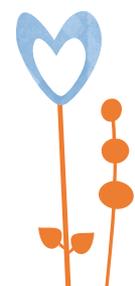
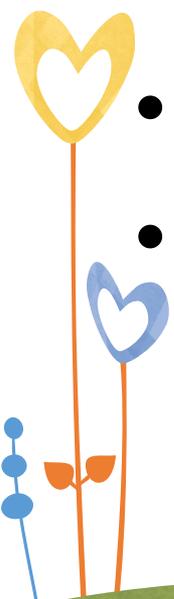


自己紹介

- 公認心理師・特別支援教育士
- 臨床発達心理士・学校心理士
- 児童心理治療施設（内原深敬寮）セラピスト
- 茨城大学・茨城キリスト教大学非常勤講師
- 乳幼児健診 心理相談員
- 研究テーマ：子ども虐待、里親、
- **子どもの養育における親以外の大人の重要性**

本日の予定

- 9:30～11:30 講義、意見交換
- 11:30～12:20 休憩 昼食
- 12:20～14:20 講義、意見交換
- 14:20～14:30 休憩
- 14:30～16:30 講義、意見交換



本日の内容

🌸 みなさんの簡単な自己紹介

1. 乳幼児のからだの発達と保育
2. 乳幼児の心の発達と保育
3. 乳幼児のことばの発達と保育
4. 精神保健と保育
 - 1) アタッチメント(愛着)
5. 生涯発達からみた乳幼児期の重要性

『はじめての100か月』は、 生涯の幸せを育てる。

『はじめての100か月』という言葉聞いたときに、何を思い浮かべますか？

妊娠期から小学校1年生までがだいたい100か月。この時期に、

こどもは様々な人やモノ、環境とのはじめての出会いを繰り返しながら育っていきます。

だからこそ、私たちはこどもが人生の最初の一步を踏み出せるよう、

社会全体で支え、応援していくことが大切です。

こどもをまんなかに置いた社会を実現することは、

全ての人の幸せ（ウェルビーイング）にもつながります。

置かれた環境にかかわらず、全てのこどもの『はじめての100か月』を

みんなで大切にしていきたいと考え、

『はじめての100か月の育ちビジョン』をまとめました。



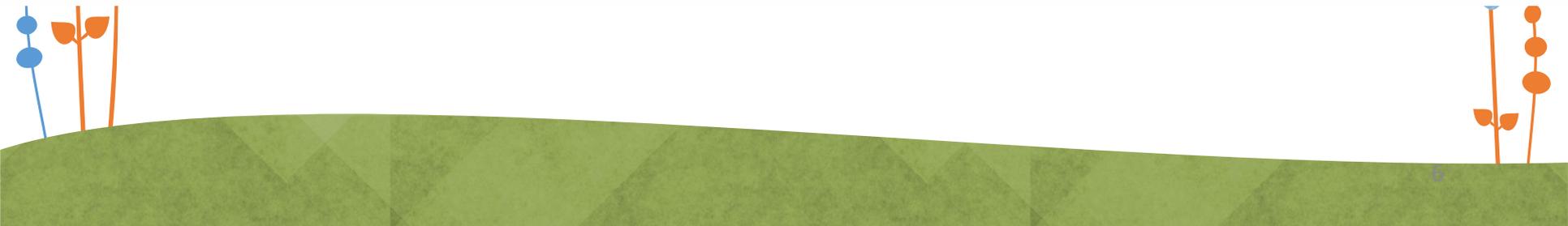
「はじめの100か月」とは？



※幼保小接続の重要な時期

〔 10か月 〕 〔 12か月 〕

10か月 + 84か月 + 12か月



乳幼児期の発達を学ぶ目的

- 生涯の中で乳幼児期ほど、変化の大きな時期はない。
- 乳幼児の心身両面にわたる発達のプロセスについて学ぶ。
- 乳幼児の発達をどのように支えればよいのか、また、様々な問題が生じた場合に、それらにいかに対処すべきかについて学ぶ。

子ども虐待の現状



児童相談所への虐待通告・相談の増加

- 令和4年度 225,509件
- 平成2年に比較すると約()倍



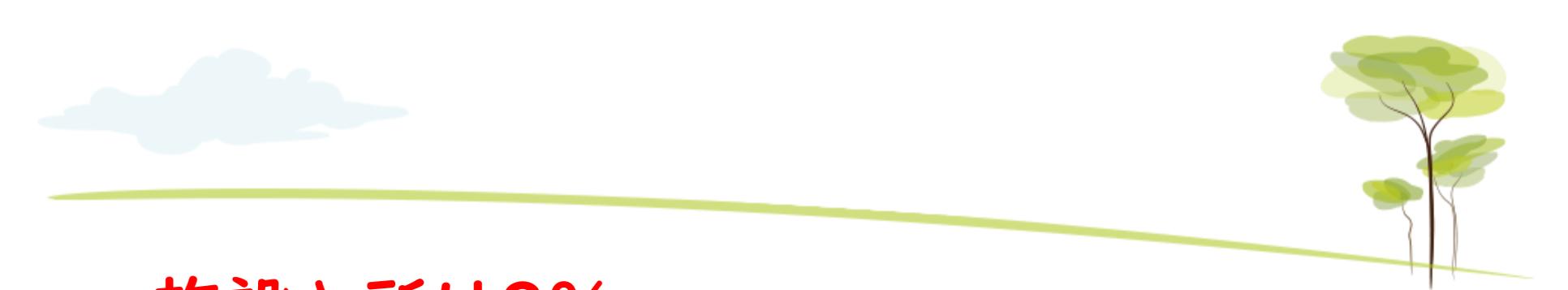
204倍

約68人に1人の子どもが
虐待を受けている。



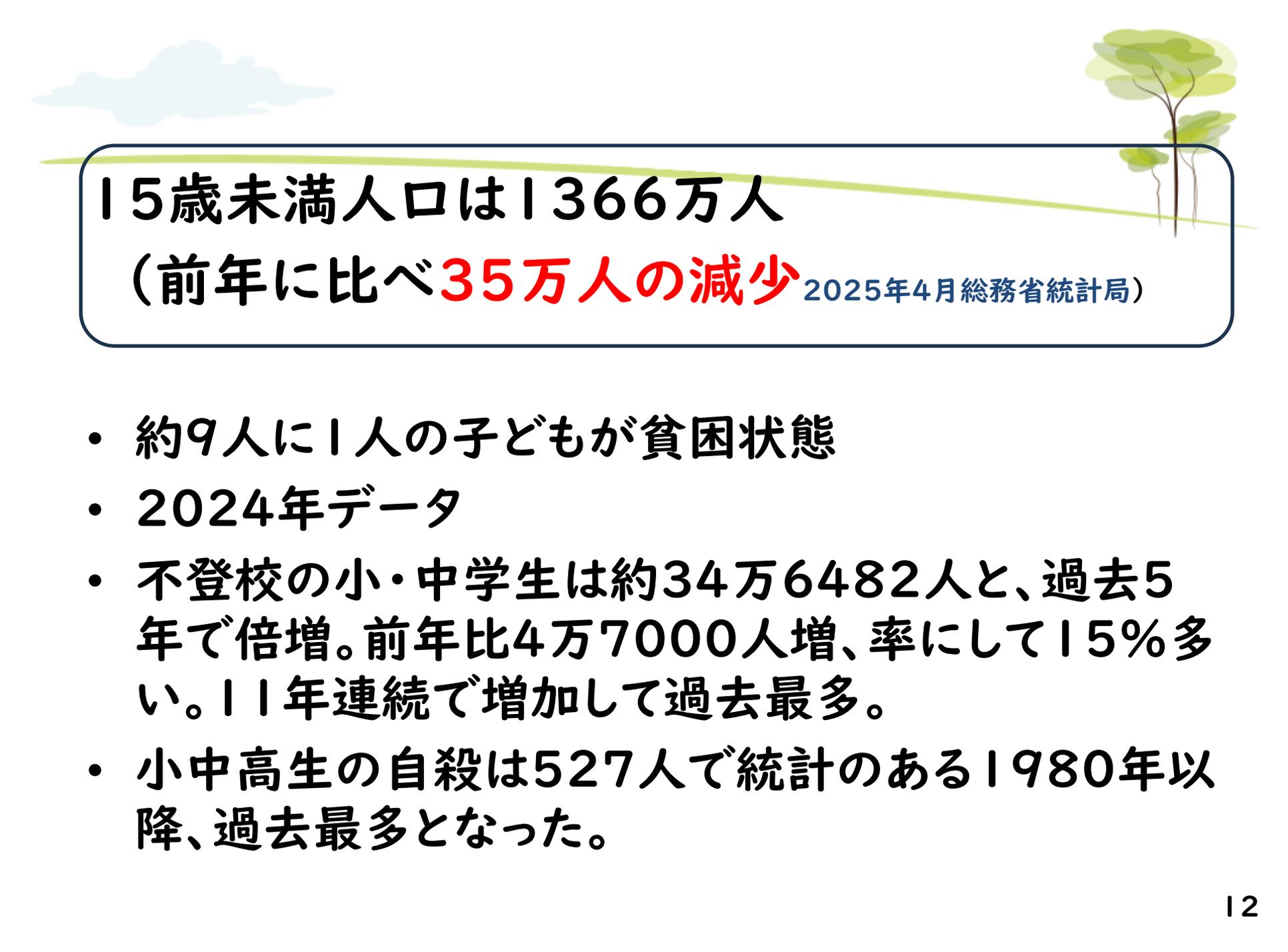
虐待があったと認められたケースのうち、親子分離して施設に入所する割合は何%でしょうか？



- 
- 施設入所は2%。

- 虐待通告の98%の子どもは在宅支援

- 子供と関わる仕事をする以上、私たちの周りには、不適切な養育・虐待を受けているリスクがある子供、DVの心理的虐待にさらされている子供がいる可能性があることを常に意識しながら、支援にあたる必要があります。
- それは保護者との関わりにおいても言える。

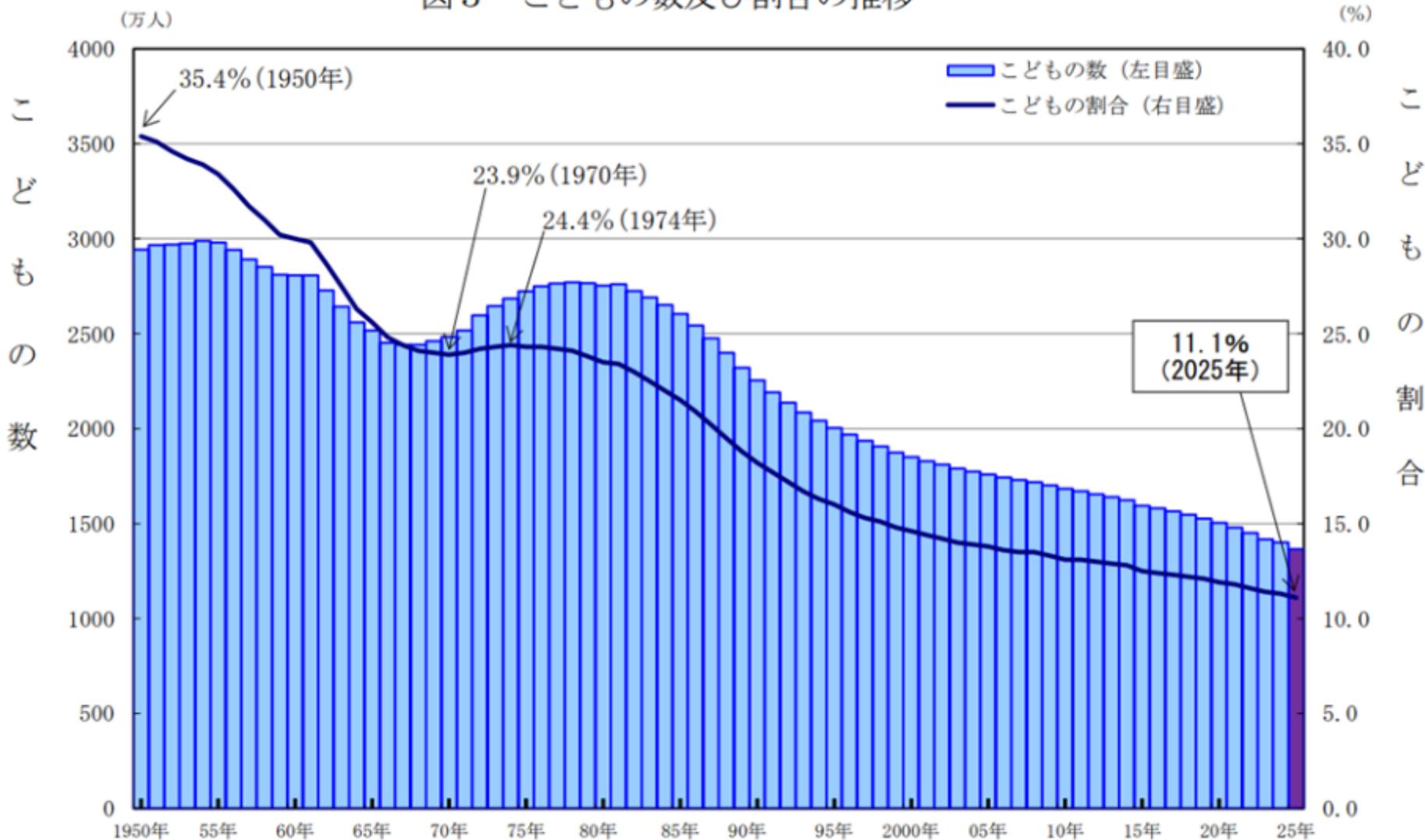


15歳未満人口は1366万人

(前年に比べ**35万人の減少** 2025年4月総務省統計局)

- 約9人に1人の子どもが貧困状態
- 2024年データ
- 不登校の小・中学生は約34万6482人と、過去5年で倍増。前年比4万7000人増、率にして15%多い。11年連続で増加して過去最多。
- 小中高生の自殺は527人で統計のある1980年以降、過去最多となった。

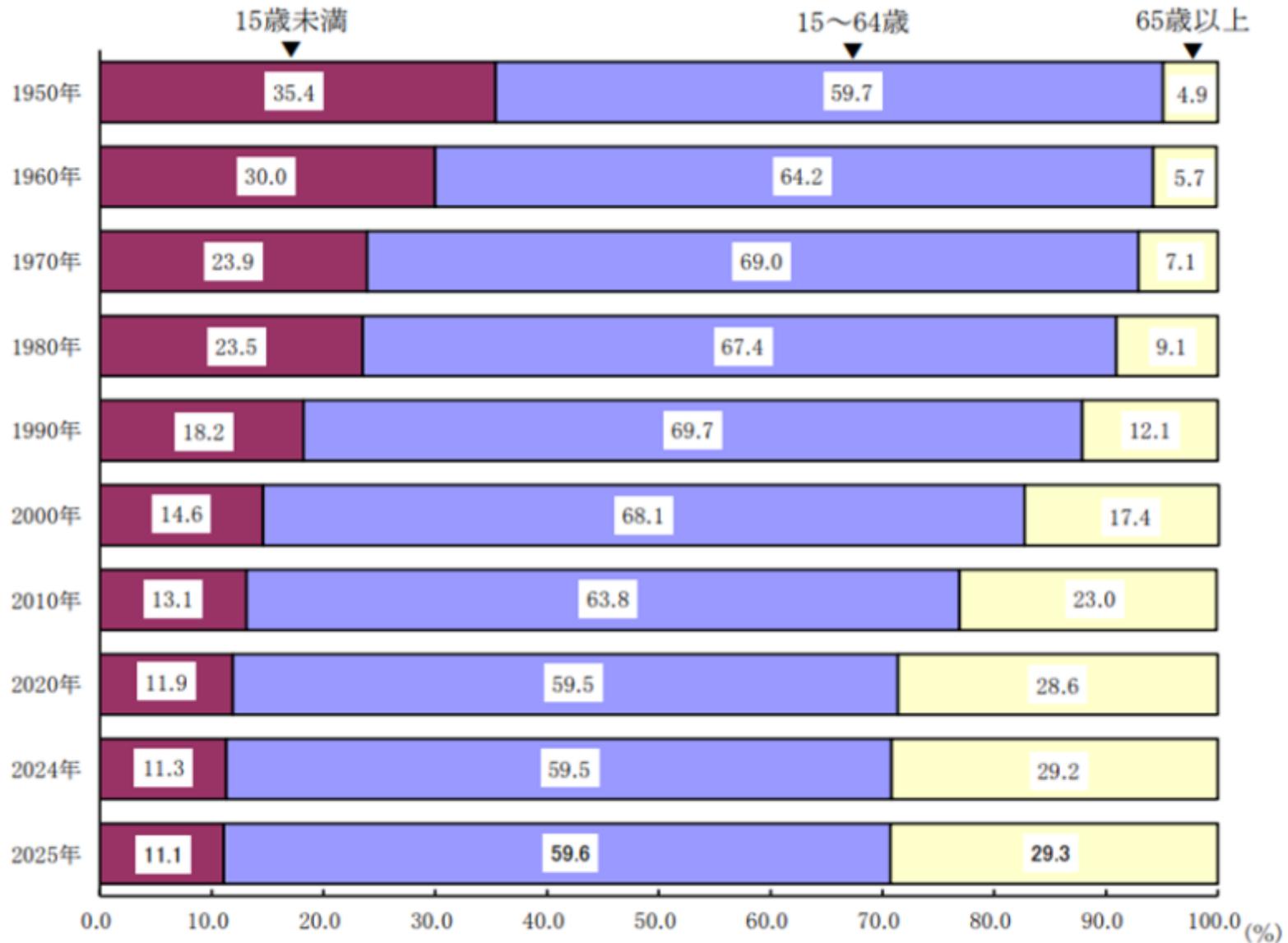
図3 こどもの数及び割合の推移



資料： 「国勢調査」及び「人口推計」

注) 2024年及び2025年は4月1日現在、その他は10月1日現在

図2 年齢3区分別人口の割合の推移



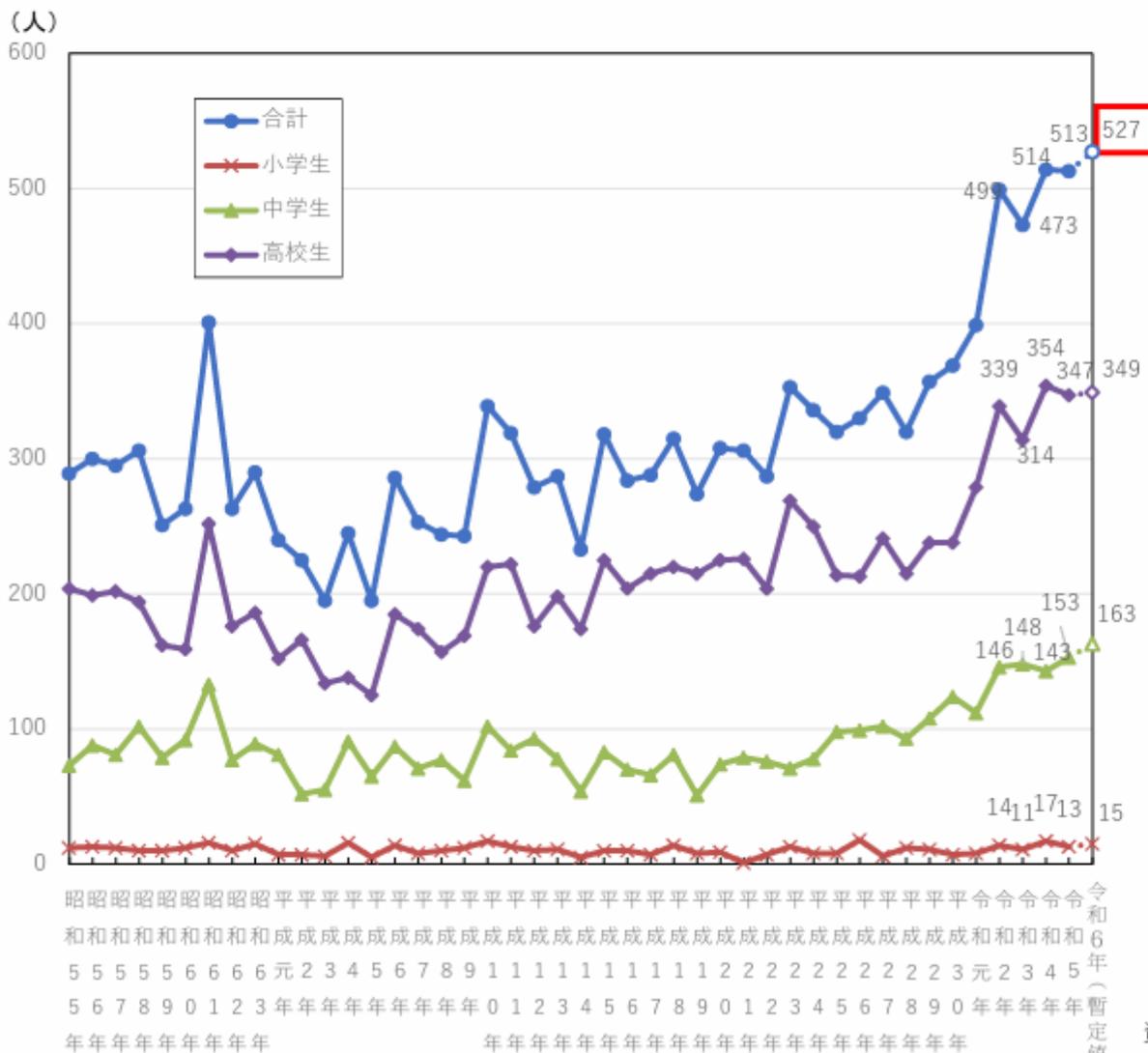
資料： 「国勢調査」及び「人口推計」

注) 2024年及び2025年は4月1日現在、その他は10月1日現在

【令和6年（暫定値）】小中高生の自殺者数年次推移

令和7年1月29日現在

○小中高生の自殺者数は、近年増加傾向が続き、令和6年（暫定値）では527人と、統計のある1980（昭和55）年以降で最多となっている。



【令和5年、令和6年（暫定値）】
小中高生の自殺者数年次比較

	令和5年	令和6年（暫定値）	対前年増減数（R6-R5）
合計	513人	527人	14
小学生	13人	15人	2
中学生	153人	163人	10
高校生	347人	349人	2

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省自殺対策推進室作成

「こども未来戦略」

異次元次元少子化対策の実現に向けて 令和5年12月



- 2024年の日本の出生数は68万6061人となり、前年(72万7288人)から約4.1万人減少し、初めて70万人を下回った。統計史上最低
- 1949年、出生数 約270万人と比較して、3分の1以下にまで減少
- **少子化は、人口減少を加速化**
- 100万人の大都市が毎年1つ消滅するようなスピードで人口減少が進む。
- 今後、50年で、人口の3分の1を失うおそれがある。
- 急速な少子化に歯止めをかけなければ、日本の経済・社会システムを維持できない。



- ・子どもと関わる仕事をするためには、俯瞰的に、子どもが、今、置かれている現状を見つめることが必要。
- ・日本社会の未来の形が、確実に変わってしまうであろう、危機的な超少子化問題。その中での子どもの育ち。
- ・子どもの数が激減しているのに、子ども虐待や、自殺者数が増加している現状。
- ・これらを踏まえて、「**こどもの生涯の幸せを築く、初めの100か月**」にプロとして関わることの意味。

1. 乳幼児期のからだの発達



1) 生後6か月未満

① 生理的機能

<4か月>

- 昼夜の区別ができるようになり、夜に比較的よく眠るようになる。
- 体重が出生時の約2倍の6キログラム前後になる
- 口唇探索反射（口の周りに指先を当てると、そちらを向いて吸い付こうとする。

②姿勢・運動

<4か月>

- 支えると寝返りができるようになる。(自力で寝返りできない時は、うつぶせ寝は要注意!)
- 乳幼児揺さぶり症候群に注意

<5か月>

- うつ伏せでは、胸を上げ腕を伸ばし、手のひらで体重を支えられるようになる。

③手指の操作（目と手の協応）

<4か月>

- 手にもったガラガラを口に入れたり、降り鳴らしたりする。
- 近くに差し出された物を自発的につかむ。

<5か月>

- 自発的に手を伸ばして物をつかむことができる。
- 物に触れる時に手指がぱっともみじ状に開く。

④感覚系（視覚）

<4か月>

- ・動く物を左回り、右回りどちらも滑らかに「面として」追視する。

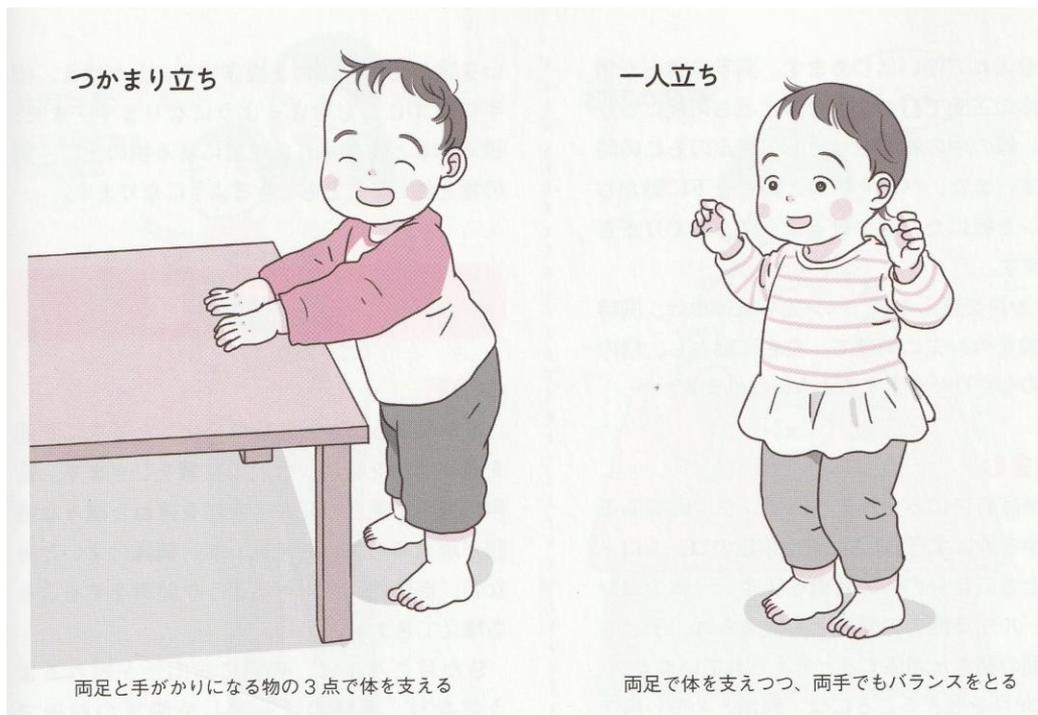
<5か月>

- ・全方位に追視ができる。



2) 6か月～1歳3か月未満頃

- お座り、はいはい、つかまり立ちから伝い歩きを
獲得し、物を介した人とのやりとりが始まる時期。



- 西村真実著「育児担当制による乳児保育」 中央法規2019 より引用

保育所保育指針 6か月から1歳3か月

- 探索活動が活発になる。
- **特定の大人**との応答的な関わりにより、**情緒的な絆**が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる一方で**人見知り**をするようになる。
- 身近な大人との関係の中で**自分の意思や欲求**を身振りなどで伝えようとする。
- 大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。
- 食事は離乳食から**幼児食へ徐々に移行**する。

①-1 生理的機能

<6~9か月>

- 脳の重さが出生時の2倍になる。
- お座り、四つん這いができるようになる。
- 一日の睡眠時間は14時間前後になり、生活リズムが安定して午睡は午前と午後、夕方の3回となる。
- 母体免疫から自己免疫へと切り換わるが、まだ病気への抵抗力は弱い。

①-2 生理的機能

<9か月～1歳3か月>

- 体重が出生時の約3倍になる。
- 大脳系の成熟が進み、お座りや立位でバランスをとる力、手指の操作における調整の力がついてくる。
- 目覚めている1回の時間が3.5時間前後になり、午睡が午前と午後の2回になる。

②-1 姿勢・運動

<7~8か月>

- おなかを床につけ、腕の力で前に進む「ずりばい」での移動が始まる。
- 両手を床につけて体を支え、お座りをする。
- 両手を支えると、わずかに立つことができる。

<9か月>

- 両手とひざを床につけた「四つ這い」で移動する。
- 両手を床から離したお座りができる。
- つかまり立ちをし、伝い歩きを始める。

②-2 姿勢・運動

<10か月>

- 膝を伸ばしておしりを上げる「高ばい」で移動し、斜面や段差を乗り越える。
- 四つん這いから座位へ、座位からつかまり立ちへ、立位から座位へなど姿勢の変換を自由に行う。

<1歳から1歳3か月>

- 歩行が始まる。

③手指の操作

<7~8か月>

- 持っている物が手から離れてしまうことはあっても、自ら自由に離せない。

<9か月>

- おもちゃやティッシュを取り出すなど「散らかす」操作を好む。

<10か月>

- 「器に物をいれようとする」「積み木の上に積み木をのせようとする」

④ 感覚系（視覚）言語・認識

<7か月>

- ・抱っこされるときに、両手を伸ばす。

<10か月>

- ・意味のある言葉（初語）を発するようになる。

<11か月>

- ・行きたい所、欲しい物が明確になり、要求と異なる対応をされると怒る。

<1歳～1歳3か月>

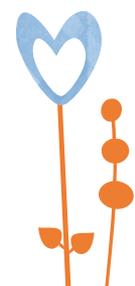
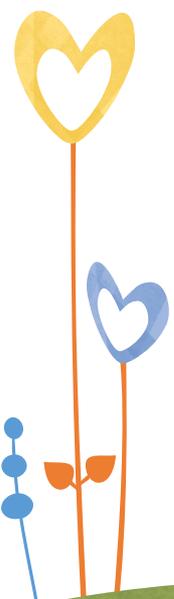
- ・「お外に行くよ」「マンマだよ」など簡単な言葉の指示を理解する。
- ・単語の語尾や語頭を表現する。バスのバ、靴のチュ

3) 1歳3か月～2歳未満

- 歩行が確立して生活空間が広がり、言葉を話し始める時期。

<1歳6か月>

- 脳幹支配から大脳支配となる。
- (動物から人間へ)
- 言葉を話す。二足歩行。



4) 2歳頃

- 基本的な運動機能が発達し、自己主張が強くなる時期。(イヤイヤ期とも言われる)
- 「ジブンデ」と主張する「自我の拡大」
「意欲の拡大」の時期



2. 乳幼児期の心の発達



心の発達

赤ちゃんの心の発達は、笑うこと、泣くことから始まる

- 1～2か月 **生理的微笑「新生児微笑」**
- 3か月頃 **社会的微笑**
- 5か月頃
- 養育者には声を出して笑いかけるが、見慣れない人は、じーっと見つめるなど。
「**社会的・選択的微笑**」になってくる。



社会性の発達（笑いかける）

1～2か月 生理的微笑（あやしかけに反応しているわけでないが、養育者の愛情を引き出す力がある）

・3か月 社会的微笑（あやしかけに微笑みを返す）

<4か月>

・「自分から」相手に向かって微笑みかける。

<5か月>

・母親や普段親しく接している人には声を出して笑いかけるが、見慣れない人はじーっと見つめるなど「社会的・選択的微笑」になってくる。

(生後) 8か月不安

- 「人見知り」が始まる
- 見知らぬ人が近づいてくると泣く。
- 知らない人の顔をわざわざ見て泣く。
- 養育者などへの特定化を強めていく。
- 目の前から養育者の姿が見えなくなると泣きながら後追いをする。
- 夜泣きが多くなる場合もある。



自我・社会性（1）

<7か月から8か月>

- ・見知らぬ人を避け、母親や保育者などへの特定化を強めていき、後追いや夜泣きが多くなるなど、「8か月不安」の特徴が見られるようになる。

<10か月>

- ・「ちょうだい」に対して、手の上に置こうとする。
- ・自分の名前がわかり、呼ばれると手を挙げる。

<11か月>

- ・他者が示す喜怒哀楽の感情がわかる。

自我・社会性(2)

<11か月>

- **得意**、照れる、かわいがるといった感情を示す。
(どや顔がかわいい♡)

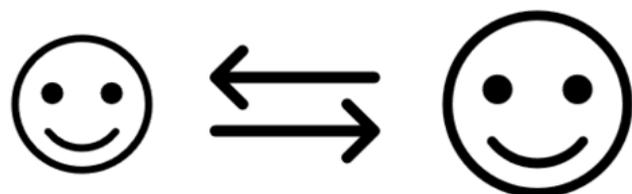
<1歳~1歳3か月>

- 自我が芽生える。
- ダメと禁止されるとひっくり返ったり、泣いたりして全面的な拒否になりやすい。
- 食事場面では、手づかみやスプーンを使って自分で食べようとし始める。

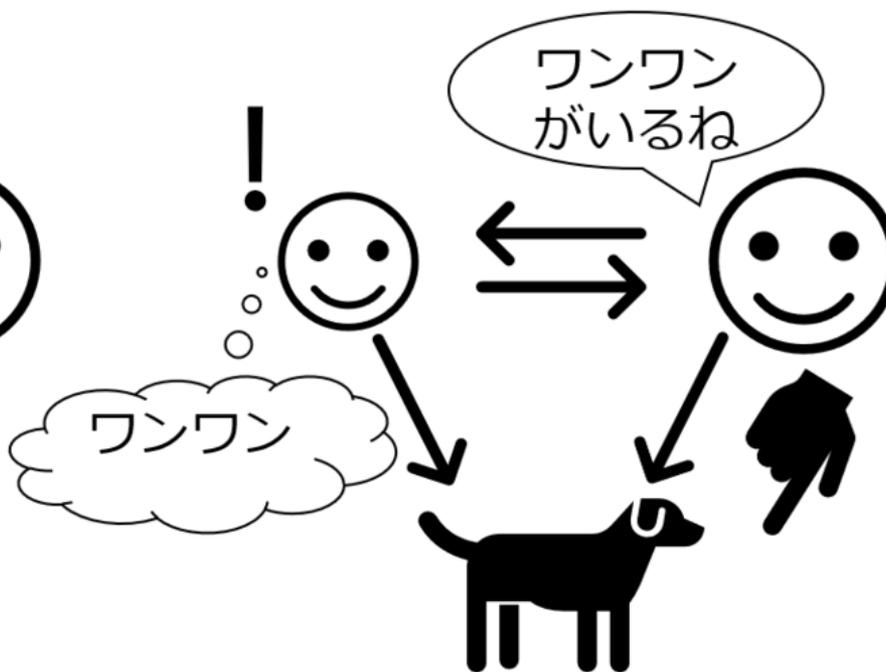
共同注意—9か月の奇跡—

- コミュニケーションの発達のうえでとても重要な出来事→「**9か月の奇跡**」という。
- 三項関係（大人との関係性の重要な変化）の出現
大人と子供が一つのを「並び見る」関係
気持ちを共有して、コミュニケーションする。
（ただ同じものを見ている：同時注視でなく）
- **視線と気づき**をともにする（**共同注意**）
- **指さしの出現**（大人の注意を自分が注意するものに振り向かせる）

共同注意



あなた－わたし
二項関係



あなた－わたし－ワンワン
三項関係

ことばの獲得の土台となるやり取り

ものをひとつの話題として、赤ちゃんと大人が心を通わせることができるようになる三項関係

定型発達では

日常生活でごく自然に
やっている。



ことばの獲得

三項関係

- ・ 赤ちゃんと言育者が心を通い合わせる。
- ・ 赤ちゃんの視線の先にあるものの名前を言う。

自閉症スペクトラムの赤ちゃんは、共同注意の「指さし」がみられないことも多い。

言葉の獲得が遅れる。

「指さし」は乳幼児健診のチェック項目。

共感する脳の発達において

- 赤ちゃんが、自分の心、他者の心を理解する力に繋がっていくものをジョイントネスという。

- 「初めて注射される赤ちゃんの付き添い場面での母親の対応」の実験

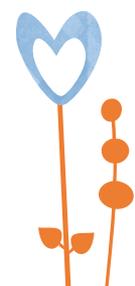
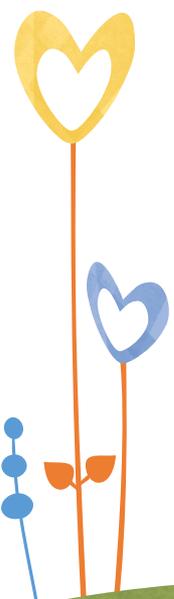
一番、早く泣きやんだのは？

- A まったく動揺せず、表情ひとつ変えることなく「大丈夫」と言って、赤ちゃんの気をそらそうとする母親。
- B つい赤ちゃんと同じような表情になってしまいがら「痛かったね」と言って、「お母さんがいるから大丈夫よ」と言いながら赤ちゃんをなだめようとする母親。
- C 赤ちゃんの不安や恐れに巻き込まれてひたすら動揺してしまう母親。

ブレイクアウトルーム みんなで話し合ってみましょう!

その前に、
アイスブレイク
自分のお気に入りの紹介
その後、話し合い

10分間



意見交換をしてみましょう

一番、早く泣きやんだのは？

- A まったく動揺せず、表情ひとつ変えることなく「大丈夫」と言って、赤ちゃんの気をそらそうとする母親。
- B つい赤ちゃんと同じような表情になってしまいがら「痛かったね」と言って、「お母さんがいるから大丈夫よ」と言いながら赤ちゃんをなだめようとする母親。
- C 赤ちゃんの不安や恐れに巻き込まれてひたすら動揺してしまう母親。

共感することの重要性

- 養育者から「痛かったね、びっくりしたね」など、自分の感情に意味をつけてもらいながら慰められるやり取りを通して、**自分の気持ちやからだの状態にぴったりあった適切な言葉**を張り付けることができる。
- 感情にラベリングできるとコントロールできる
- 自分の心、他者の心を理解する力につながっていく。

3. 乳幼児のことばの発達



ことばの発達に大切なもの

共同注意 (ジョイントアテンション)

視線の共有



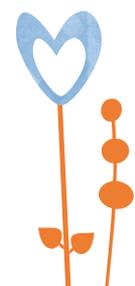
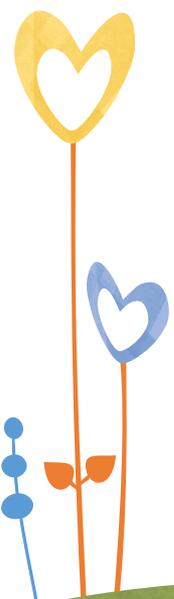
気持ちの共有 (感情の分かち合い)



コミュニケーション



ことばの獲得



子どもの選択的注意

選択的注意とは

- 世界は無数の刺激情報であふれている。
- 私たちは、常に何かを選び取って生活してる。
- 周囲の物事や出来事の特定期間、心の動きの特定期間の側面に対して反応したり、注目したりするように仕向ける意識の働きを**注意**、または**選択的注意**という。
- スポットライトに例えられる。

子どもの選択的注意の変化

子どもは言葉の獲得前になると、相手の口元をよくみる。

【生後2～4か月頃から】

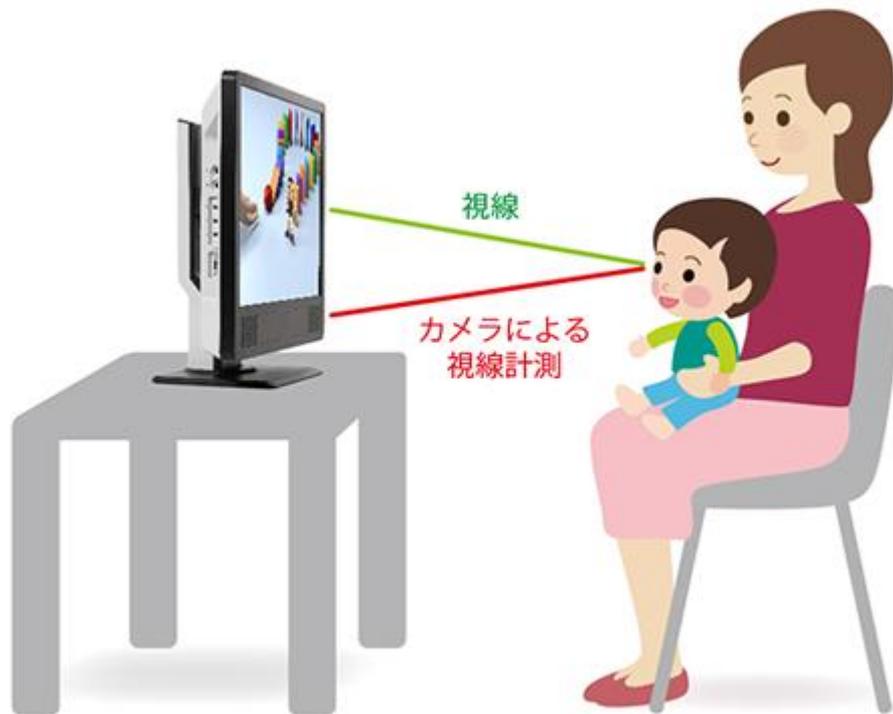
赤ちゃんは人の顔が好き。特に「目」をよくみる。

【8～12か月頃】

赤ちゃんは、「目」よりも「口」をよくみる。

初語があらわれる前に口の動きに注意が向く

Lewkowicz, D.j 2012



乳幼児の計測イメージ

マスクが言葉の発達に与える影響

- 赤ちゃんはママやパパの目をじっと見始め、次に口の動きに興味を示す。
- 「ばばばばば」、「だだだだだ」などの喃語（なんご）を発して口の動きを練習する時期に、目で見て口の動きを学び、マネしようとする。
- コロナ禍、小児科医や発達の専門家などからは、子どもの育ちを不安視する声も聞かれる。

共同注意

- 選択的注意よりもさらに高度なシステム
- 他者が注意を向けている対象を理解して、対象に対する他者の態度を共有する。
- 自分の注意の対象を他者に示して他者にそれを共有してもらう行動



- 絵本の読み聞かせ、学校の授業など、教育的な活動の大前提、文化の中で育っていく子どもにとって重要な機能。

発達障害児・その傾向の子どもへの支援

- 定型発達の赤ちゃんには当たりまえにできる選択的注意、共同注意が発達障害の子どもには難しい。
- ADHD・ASD（自閉症スペクトラム）の子ども→選択的注意が苦手
- ASD・BAPの子ども→共同注意が苦手
 - （ことばの獲得に課題）
- ASDの赤ちゃんは、指さしが遅れることもある。（乳幼児健診のチェック項目）

BAP（自閉症の広域表現型）

Broad Autism Phenotype

- ASDの症状は持っているけど、診断が出る程ではない。
- **環境と支援で症状は流動的**
- 療育の効果が期待できる
- 就学前の介入（支援）により、学校生活、社会生活の適応が変わると言われている。

指さしの出現：初語が出現する前頃

- 要求の指さし

自分の欲しいものがある時、その方向を指さして「あ、あ」などと声を出して相手の顔を見る

- 共感の指さし

興味を引く物、面白い物を見つけて心惹かれた時に「これ!みて」と相手の顔を見ながら指さしをする。

- 応答の指さし

「〇〇はどれ？」などの問いかけに対して、指さす。

ことばの発達と「視線」の深い関係

- ことばの獲得で最も重要なのは「視線」
- 赤ちゃんが注目しているものや大人が注目しているものと、ことばが結びついて、ことばの力が発達する。(共同注意)
- 大人側が視線を合わせようとしたたり、ゆっくり抑揚をつけて赤ちゃんに語りかけたりすると。共同注意が促進される。

話しかけのタイミング

- 共同注意中の話しかけが語彙を増やす
- 子どもが関心を持っている事物や活動を共有し、話しかける。
- 保育者・保護者が、子どもの視線（気持ち）を捉える（寄り添う）ことが大切！
- 注意を向けていない時に話しかけても語彙は増えにくい。

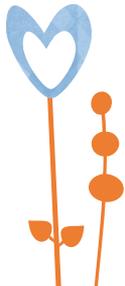
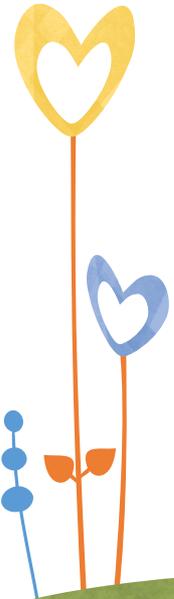
ことばの遅れが心配な時

ことばの遅れが心配なお子さんには、
シャワーのようにたくさんのことばを
話しかけてあげましょう！

このアドバイスはあまり適切ではありません。
なぜ、やみくもに、話しかけるのがいけないの
でしょうか？

ブレイクアウトルーム
みんなでお話し合ってみましょう!

5分間



ことばの遅れが心配な時

子どもには、たくさんのことばをかけてあげよう
「シャワーのように話しかけてあげて」

NG?



- 実は、子どもの状態を上手に読み取ることこそ、最初にすべきこと。
- 子どもが見ているものに目をむけて、ゆっくり、短いフレーズで子どもが興味のあるものをことばにする。

事例 三項関係が成立しにくい子ども

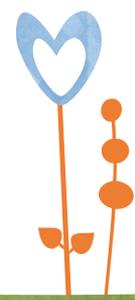
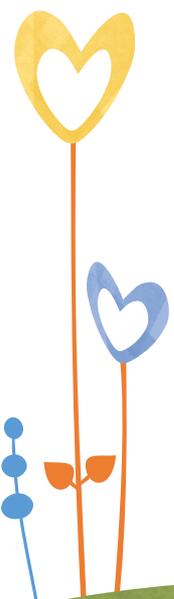
- 1歳6か月の男の子。言葉の獲得に必要と言われる三項関係がなかなか成立しません。何か良い方法がありますか？

- はいはい、お座りは、いつ頃できるようになりましたか？
- お座りが安定してから、両手が解放されて指さしが出現。
- 低出生体重の子ども、早産の子ども、個人差がある。

- 三項関係を結ぶのが難しい子どもは、二項関係に戻って子どもの甘えを満たしてあげ、やり取りの回数を増やし、内容を工夫してみる。
- ぬいぐるみを使って話しかける。
- **子どものまねをして遊ぶ。**
- 二項関係のやりとりを十分に**楽しんでから**徐々に三項関係に移行するのが適切。
- インリアルアプローチが有効な場合もある。

インリアルアプローチ

- 子どもと大人が相互に反応しあうことでコミュニケーションを促進する。
- 非言語的なコミュニケーションが楽しいと思えるようにする。
- 子どもは人との豊かなコミュニケーションの楽しさを経験することで、コミュニケーションへの意欲や基礎的能力を育てる。
- 自分の持っているコミュニケーションの潜在能力を十分発揮できるようになる。



コミュニケーションの原則

- 1) 子どもの発達レベルに合わせる。
- 2) 会話や遊びの主導権を子どもに持たせる。
- 3) 相手が始められるように待ち時間を取る。
- 4) 子どものリズムに合わせる。
- 5) ターンテークング（やりとり）を行う。
- 6) 会話や遊びを共有し、コミュニケーションを楽しむ。

養育者の基本姿勢【SOUL】

Silence（静かに見守ること）

子どもが場面に慣れ、自分から行動を始められるまで静かに見守る。

Observation（よく観察すること）

何を考え、何をしているのかよく観察する。

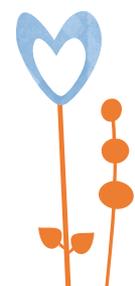
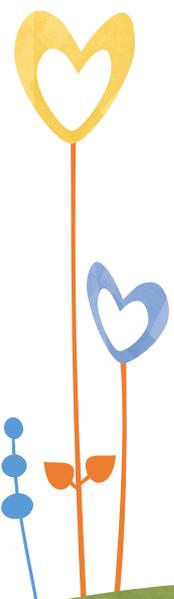
コミュニケーション能力・情緒・社会性・認知・運動などについて能力や状態を観察する。

Understanding（深く理解すること）

観察し、感じたことから、子どものコミュニケーションの問題について理し、何が援助できるか考える。

Listening（耳を傾けること）

子どものことばやそれ以外のサインに十分、耳を傾ける



養育者のことばかけ

ミラリング 子どもの行動をそのまままねる。

モニタリング 子どもの音声や言葉をそのまままねる。

パラレル・トーク 子どもの行動や気持ちを言語化する。

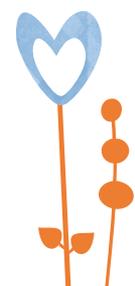
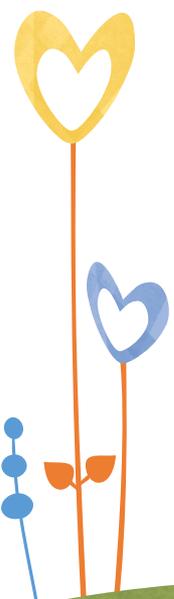
セルフ・トーク 大人自身の行動や気持ちを言語化する。

リフレクティング 子どもの言い誤りをさりげなく正しく言い直して聞かせる。(訂正はしない)

エキスパンション 子どもの言葉を意味的、文法的に広げて返す。「わんわん」「白いわんわんだね」

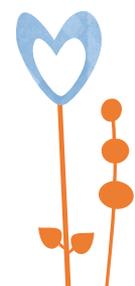
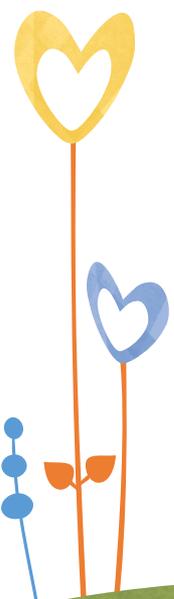
「セルフトーク」(養育者自身のことを話す)

- 「おなかすいたね」「これからお料理しますよ」など、大人自身の行動や思いをことばにする
- 目の前で起こっている状況と言葉が一致することで、子どものことばのレパートリーが広がる。
- セルフトークするときのポイントは、できるだけ子どもが理解していることばを使う。
- 「バナナを1本、2本、3本、カゴに入れよう」と数えながら実況中継するように話す。



パラレルトーク（子どもの様子をことばにする）

- こどもがその時感じているだろう気持ちや、体の様子を言語化する。
- おやつおいしいねー。
- 大きい音でびっくりしたね。
- ねむくてイライラしちゃったね。
- 子どももきっと「**それ、今知りたかった言葉なんだ!**」という感じになる。
- 状況と言葉がマッチすると、その言葉を理解し、覚えることにつながる。



ことばかけのポイントは「ターンテイキング」

- 赤ちゃんが0才代のうちから、会話の練習は始まっている。まだ言葉を話せない赤ちゃんでも、声や反応を待ってあげ、“子どもの番”を作ってあげることは重要。
- これを「**ターンテイキング**（順番の交代）」と言う。0才代の赤ちゃんが「アー」「クー」などの声を出したら、「そうなの」「ごきげんだね」などと答えてあげ、次は赤ちゃんの声を待つ、というように「ターンテイキング」を意識する。
- 言葉を覚え始めたくらいの小さな子どもは、言葉を話すときに大人の何倍も準備の時間がかかる。
- 話しかけたあとには、**子どもが答える順番を待ってあげる。**

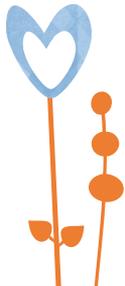
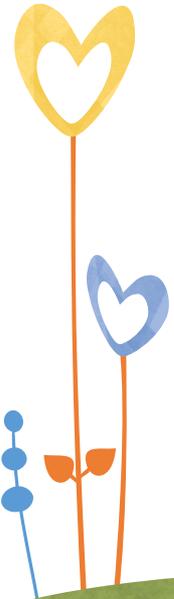
インリアルアプローチの養育者側の評価

①あなたは反応的にかかわっていますか。

- ・子どものリズムに合わせていますか。
- ・子どもの開始を待っていますか。
- ・子どものすることをよく見えていますか。
- ・子どものことばに耳を傾けていますか。
- ・子どもの意図や気持ちをよく理解していますか。

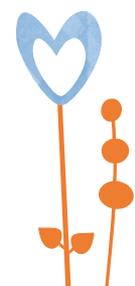
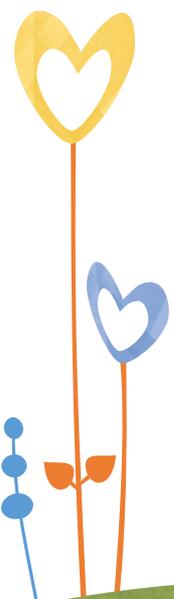
②子どもと遊びを共有していますか

- ・子どもと同じ遊びを共有していますか。
- ・子どもとの遊びを楽しんでいますか。
- ・子どもが考えられるよう待っていますか。
- ・遊びが発展できるようなモデルを示していますか。



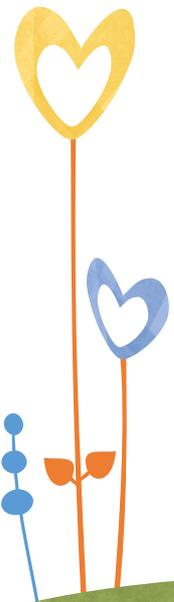
③ 子どものレベルに合ったことばかけをしていますか

- ・ 指示的（命令・禁止・質問）ことばかけが多すぎませんか。
- ・ 子どもを認めることばをかけていますか。
- ・ 早口ではありませんか。
- ・ ことばが多すぎたり、長すぎませんか。
- ・ 子どもにわかりやすい内容ですか。



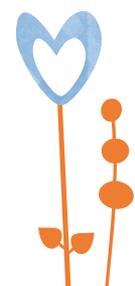
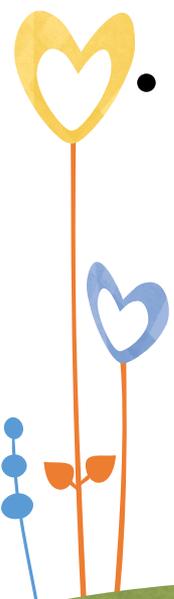
④楽しい雰囲気を提供していますか

- ・表情豊かに楽しそうにかかっていますか。
- ・ジェスチャーや指さし等を使ってことばの理解を助けていますか。
- ・声は大きすぎませんか（威圧感を与えていませんか）。
- ・声は小さすぎませんか（よく伝わっていますか）。



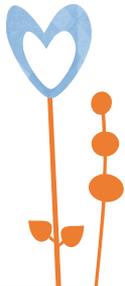
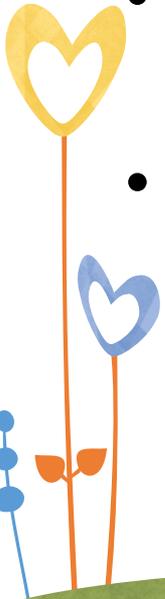
インリアル的事例

- 療育センターAさん（保育士）
- この仕事をするまで、子どもと目を合わせて話をするのが当たり前で、「目を合わせるにはどうすればよいのか」と悩もうとは思ってもよらなかった。
- B君。人とのやり取りする力は持っているのに、その力を発揮できていなかった。



インリアルな考えを学んで

- インリアルな研修会で次のことを学んだ
- コミュニケーションは2人の相互作用なのだから、どちらかの責任ではない。
- 子どもは本当にサインを出していないのか、先生が気づかないだけでないか。
- 先生のペースで遊んでいないか。



ミラリング、モニタリングの実践

- B君がボールを投げると私も投げる。B君が寝転ぶと私も寝転ぶ。最初は、B君は、こちらを気にかけない。
- カップを打ち合わせる。カップを打ち合わせる。
- カップで頭をたたく カップで頭をたたく。
- **視線があう。コミュニケーションが始まる**
- 子どもの意図を素早く読み取り返していく。ビデオ分析。

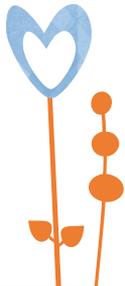
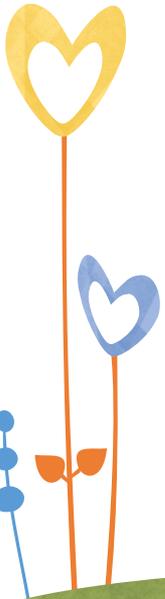
ESDM (アーリースタートデンバーモデル)

- コミュニケーションの根源に迫る 自閉症スペクトラムの最新情報
- NHKサイエンスZERO 2013 で紹介
- 服巻智子先生 佐賀市の実践
- 遊びの中で言葉を引き出したり、視線を注目させる。
- ASD (自閉症スペクトラム) は、基本的には、人より物に興味が行きがちなので、人と関わるのが嫌なことじゃないということを伝えるトレーニング

事例1歳9か月のK君

- 母親、1歳になる前から目を合わせてくれないことに違和感。ビデオを撮影しているお母さんの方を見ようとしなない。
- 1歳4か月からトレーニングを受ける。
- 最初は、相手の目を見るどころか、人との関わりがほとんどなかった。関わろうとすると背中を向けて自分だけで違う遊びをしようとする。

- 同年代の一般の子どもは、頻繁に傍にいる相手の目を見ている。楽しいこと、興味のあることを共有しようとしている。
- K君は、見つめているのは、おもちゃばかり。相手をチラリともみようとしない。



①保育者はおもちゃを顔の前に近づける。

- すると、K君の視界に自然と保育者の目が入る。
- 楽しいことと相手の目を見ることをK君の中で結びつけようとする。

②保育者自身がおもちゃのようにふるまい、K君の注意を保育者に釘付けにする。

手遊び歌とことばの獲得

- 手遊び歌に含まれることばを自然に覚える。
- 物や概念への関心を高める。
- 大人と友達と目と目を合わせ、同じ音やリズムに合わせる。
- 身体で音楽やことばを表現する喜びを味わえる。
- ことばの発達の基盤となる模倣能力や手や指を使うので微細な運動能力も育つ。

手遊び

- 呼吸を合わせておこなう遊び
- 気持ちを共有する楽しさを体感できることから、「自分の気持ちを伝えたい」という欲求が生まれ、それが自然と保育者や子ども同士のコミュニケーションにつながる



子どもが遊びに参加し、対等に交流することを心がける

オノマトペ

- 擬音語・擬声語・擬態語
- 動詞の獲得にオノマトペを使うと身体活動や情緒を豊かに育みながら動詞の獲得を促すことができる。
- ボール遊び ボーン、てくてく歩く。
- ウサギ、ぴよん、ぴよん、飛ぶ。
- 「よく噛んでね、もぐもぐしてね」「あぐあぐ」
- ままごと まぜまぜ と言いながら混ぜる。

子どもが言いやすいことば

シャワーのように話しかけないで。

【1】厳選して【2】短く【3】簡単に【4】繰り返す

【身近な言葉】

まんま ねんね ママ・パパ ばあば・じいじ
ニャンニャン・ワンワン でんしゃ ゾウ

【体験している言葉】

できる／できた バイバイ

【言いやすい、理解しやすい言葉】

ナイナイ どうぞ ちょうだい あっち

コミュニケーションはキャッチボール

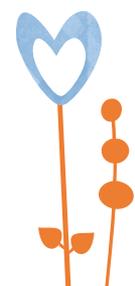
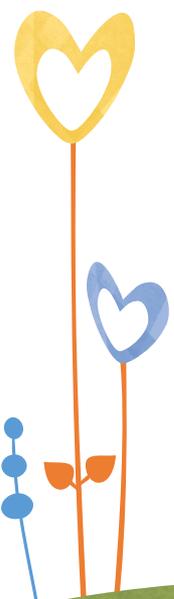
- キャッチボール、相手がとても上手な人だと、どんな球でも捕ってくれて、自分の捕りやすい球を返してくれる。
- 投げるのが楽しい。キャッチボールが楽しいと思える。
- 子どもとのやり取りも、拾う技術、うまく返す技術が必要。

4. 精神保健



子育て家庭と支援

- 核家族、転勤家族、祖父母も働いている。
- 孤立しているお母さん、
- 孤立しているお父さん、
- 待機児童問題 簡単に保育園に入れるわけではない。
- コロナ禍の中では、ますます孤立を深めている。



共同養育とは？

- 昔は、近所で助け合いながら子育てをすることができた。
- 自分の親や親せきに助けてもらえながら、子育てをすることができた。
- 少子化、核家族化で、子育てを手伝ってくれるひとがいない。
- 家庭的保育の存在意義。
- 保育園、フルタイムで働くお母さんでさえ、1歳児だとなかなか入ることができない。

乳児期の心の問題と対応



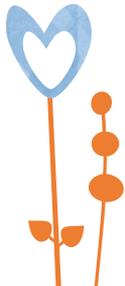
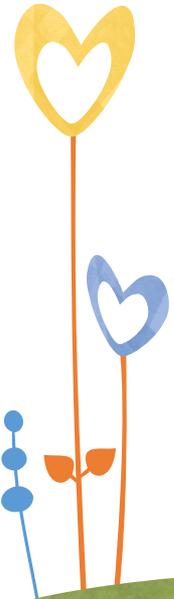
「三つ子の魂百まで」というけれど？

- 「3歳までに子どもの人格と性格は形成され、それは100歳まで変わらない」と言われている。
- 乳幼児期は、「親子の愛着の安定が大切」とよく言われている。
- 親との「**愛着**」が安定している子どもは心が安定している。
- しかし、そもそも「愛着」って何だろう？

ブレイクアウトルーム みんなで話し合ってみましょう!

10分間

しかし、そもそも「愛着」って何だろう？
家庭的保育から見た「三つ子の魂百まで」とは？
みなさんの意見を聞かせてください。



アタッチメントの安定は生涯にわたり、人間を支える

アタッチメントは子ども時代だけでなく、
成人期は友人関係、恋愛関係、配偶関係など、
生涯にわたり、心理社会的適応に寄与するもの。
必ずしも、物理的近接ではない。

三つ子の魂 百まで

愛着；アタッチメントとは何か

- アタッチメントを「愛着」と訳したことによる混乱
- 本来は「くっつく」という意味。
- 子どもが、**恐れや不安**を感じた時に、特定の養育者にくっついて、安心感、安全の感覚を得ることを「**アタッチメント（愛着）**」という。
- 生理的早産で生まれたヒトの赤ちゃんは、喉が渴いた、お腹がすいた、暑いなどすべてが危機的状況で養育者のケアがなくてはその危機を回避できない。

子どもの日常生活は「危機」だらけ

赤ちゃんは、寒くても、暑くても、おしりが気持ち悪くても、お腹がすいても、喉が渴いても、自分ではどうすることもできないので泣いて**危機**を訴える。

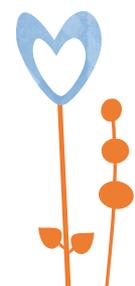
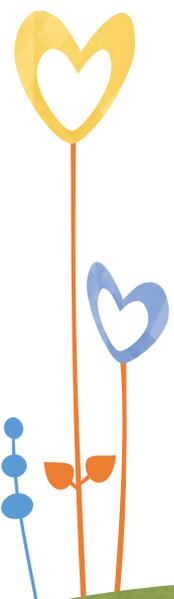
子どもにとっては、つまづいて転んで痛い時も**危機**。

離れて後ろを振り返ったら誰もいない時も**危機**。暗闇も**危機**。

子どもは怖いとか不安の感情をたくさん経験する。

思い通りにできなくてフラストレーションに陥ったりする。

ネガティブな感情を元通り・平常にしようとする欲求や行動を**アタッチメント**という。



アタッチメント ≠ スキンシップ

- アタッチメントは、**恐れ**とか**不安**とか、感情の崩れ、危機的状況を、養育者にくっつくことで、養育者との関係性によって、安心、安全の感覚を得ること。
- **マイナスから、ゼロ・平常へ戻ることが重要**
- あやしたり、あやされたり、スキンシップは、**ゼロからプラス**の状態を生み出す。
- アタッチメントは、楽しさとか、心地良さが得られるものと、異種概念。
- **アタッチメントは、子どもが危機時に助けを求める行動!**

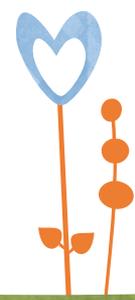
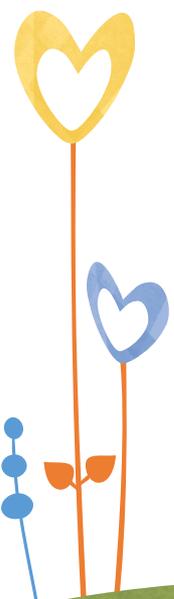
赤ちゃんは、
ことばを話せるようになる前から
人間関係を非言語的に学び、身に付けて
いる

未思考の知（言語によって組織化されて
いない）



私たちの脳は、未来を予想している

- 困った時に、誰かを思い浮かべて、その人があなたにどんな反応をするか、思い浮かびますか？
- 1歳の子どもでさえ、自分が親に近づくとうどうなるか、予想している。(表象モデル)
- 親の反応を予想して、それに合わせて行動している。
- 僕の落ち着かない気持ちをママにぶつけると、ママが落ち着かなくなるから、ぶつけない。

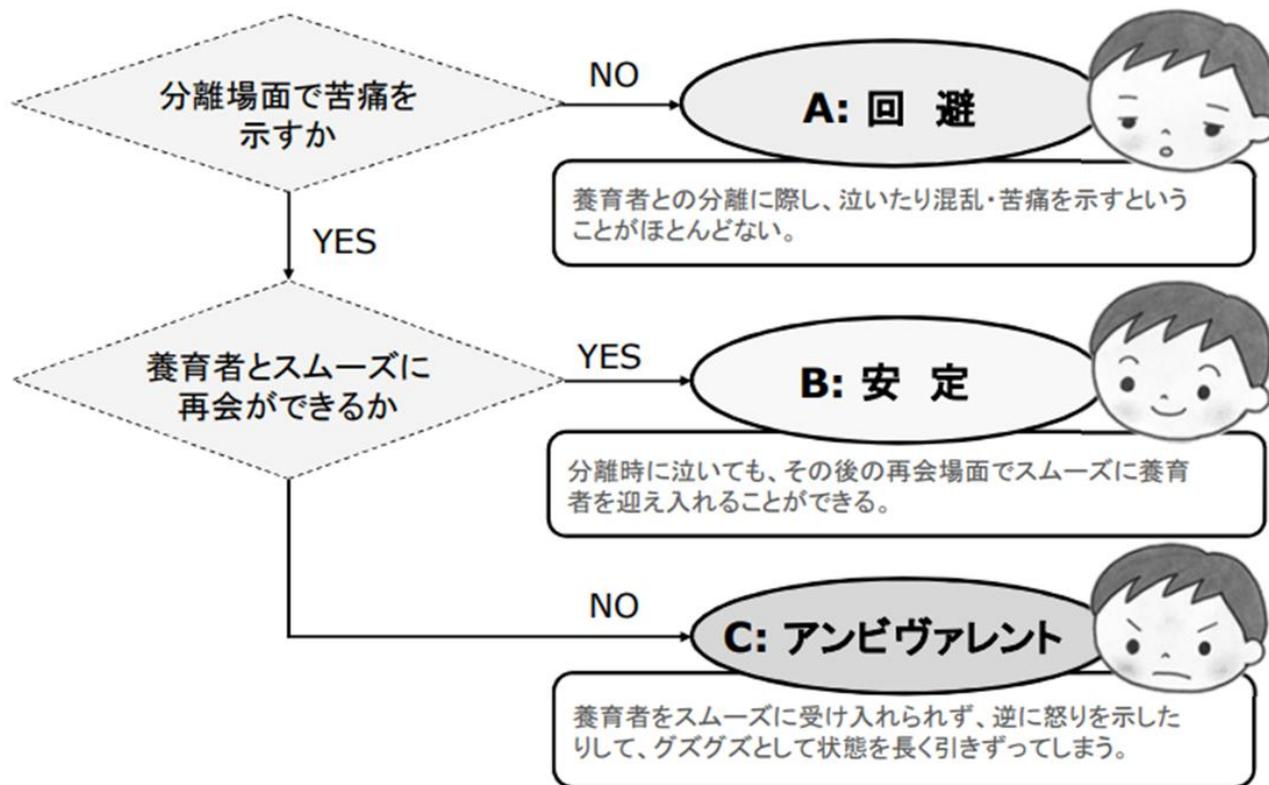


アタッチメントのタイプ

- 子どもが日々、**養育者**との相互作用を通して、「自分は他者から愛される存在である」「他者は、自分が必要な時に助けてくれる」といった内的ワーキングモデルを作る。
- 子どもはその後の様々な対人関係において、それを一種のテンプレートとして用い、他者はきっとこうしてくれるだろうという予測や、自分はここでこうした方がよさそうだという行動のプランニングを行う。

アタッチメントの個人差

ストレンジ・シチュエーション法



(赤ちゃんの発達とアタッチメント—乳児保育で大切にしたいこと、
遠藤利彦 ひとなる書房(2017/8/1))

回避型

<養育者の特徴>

- 拒絶的。子どもが泣いて近づいてくると、それを嫌がり、子どもを遠ざけたり、自分が遠のく。

<子ども>

- 養育者がいなくなっても、混乱したり泣いたりしない。
- しかし心拍数、コルチゾール上昇。潜在的に怖いと思っている。しかし、くっつかないことで**養育者をつなぎとめている**。(安心感は得られない、でも親がいなくなるよりまし)

アンビヴァレント型

<養育者の特徴>

- 気まぐれ。子どもは、どうしたら抱っこしてもらえるのか、一緒にいられるのか予測がつかない。怖くて慰めてほしい時に養育者がいない。

<子ども>

- 養育者にべったり。しかし、くっついていても安心感は得られない。いつ置いていかれるかわからない。
- 再会時、だっこされて嬉しいけど、今度は置いていかなくて、怒りを示す。
- いつも強い感情を出して**養育者をつなぎとめる**。

気持ちのコントロールが苦手な子ども

「泣く」というサインを親に出しても
適切に応答してくれない

(感情は崩れたまま)

感情だけでなく、身体の恒常性も崩れたまま

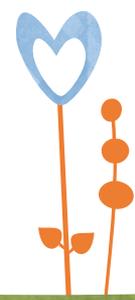
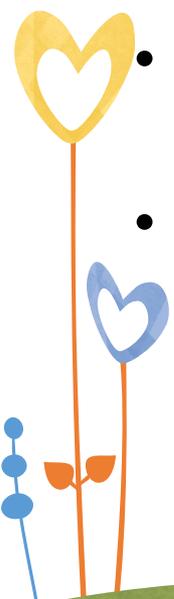


サインを出すこと
あきらめる
(自分で抱える)
回避型

もっと大きなサイン
を出す(激しい行
動を起こす)
アンビバレント型

アタッチメントは、 心だけでなく、からだにとっても重要

- 心とからだは関連している。
- 皆さんは、怖く不安な時、身体はどうなっているでしょうか？
- 心が平常でない状態であれば、身体も平常ではない状態になっている。
- 大きな感情を経験すると体の恒常性が崩れて、心臓や血管、内臓に負担がかかり続けてしまう。
- 子どもの場合は、こうした状態が長く続いてもとに戻らないと、脳を含めた体の仕組みが上手く発達しない。



アタッチメント研究の現在

- ボウルビィ「Attachment and Loss」→「母子関係の理論」(邦訳タイトル)

- アタッチメント(愛着)が母子関係の理論だと暗黙裡に刷り込まれてしまった。

- しかし、現在は、親子関係と同様に、親以外の養育者とのアタッチメントの重要性が着目され始めている。

子育てにおける社会的変動

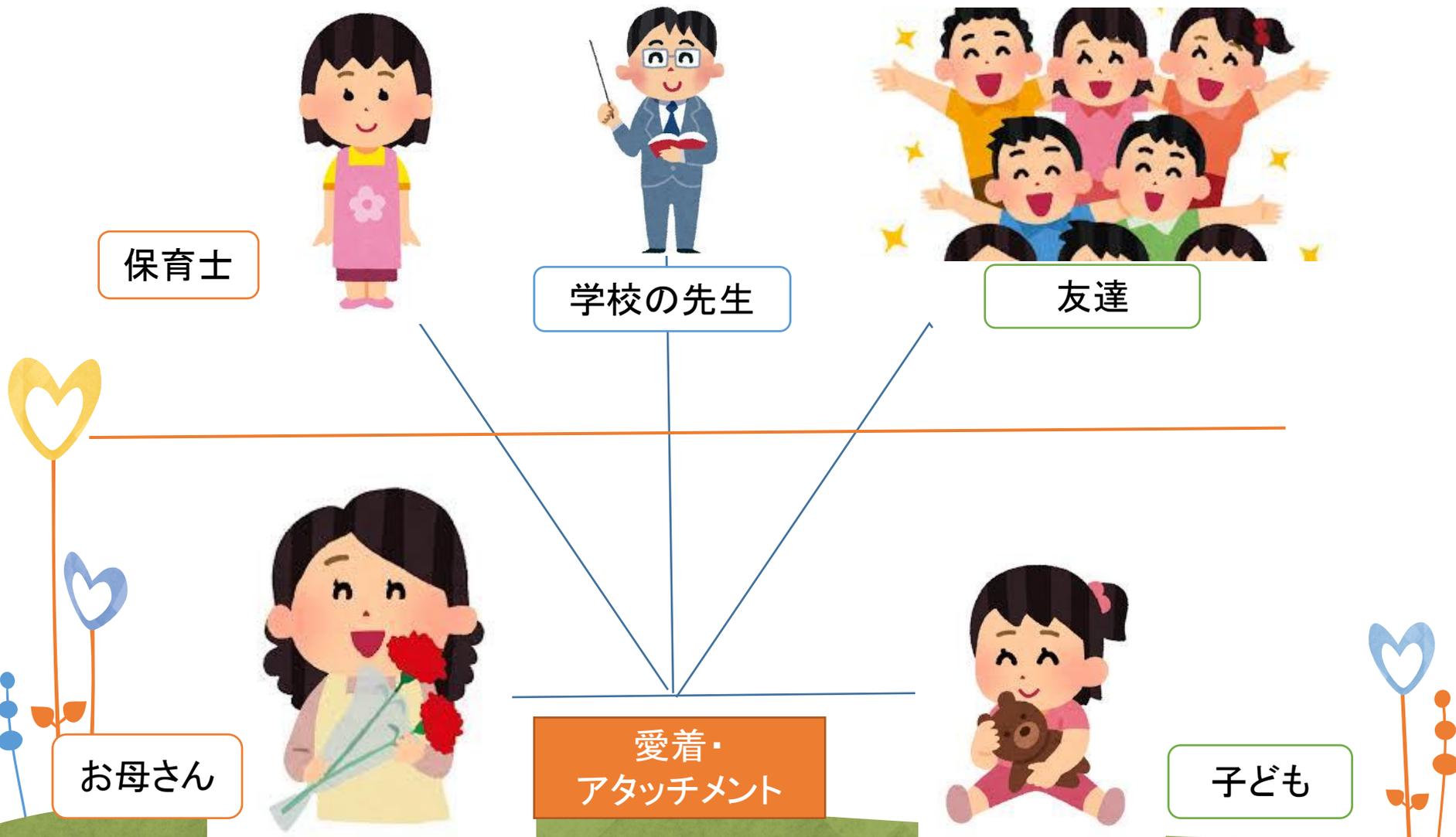
- 1・2歳児の保育所利用率は50.4%。
- 待機児童数:2歳未満が全体の87.1%を占める。
(令和2年9月4日発表 厚生労働省子ども家庭局 保育課より)

- 標準保育時間 11時間
- 一日の大半を保育園で過ごす乳幼児の方が、家庭で過ごす乳幼児よりも多い時代。
- 三つ子の魂を育てる場所はもはや、個人の家庭ではない?。

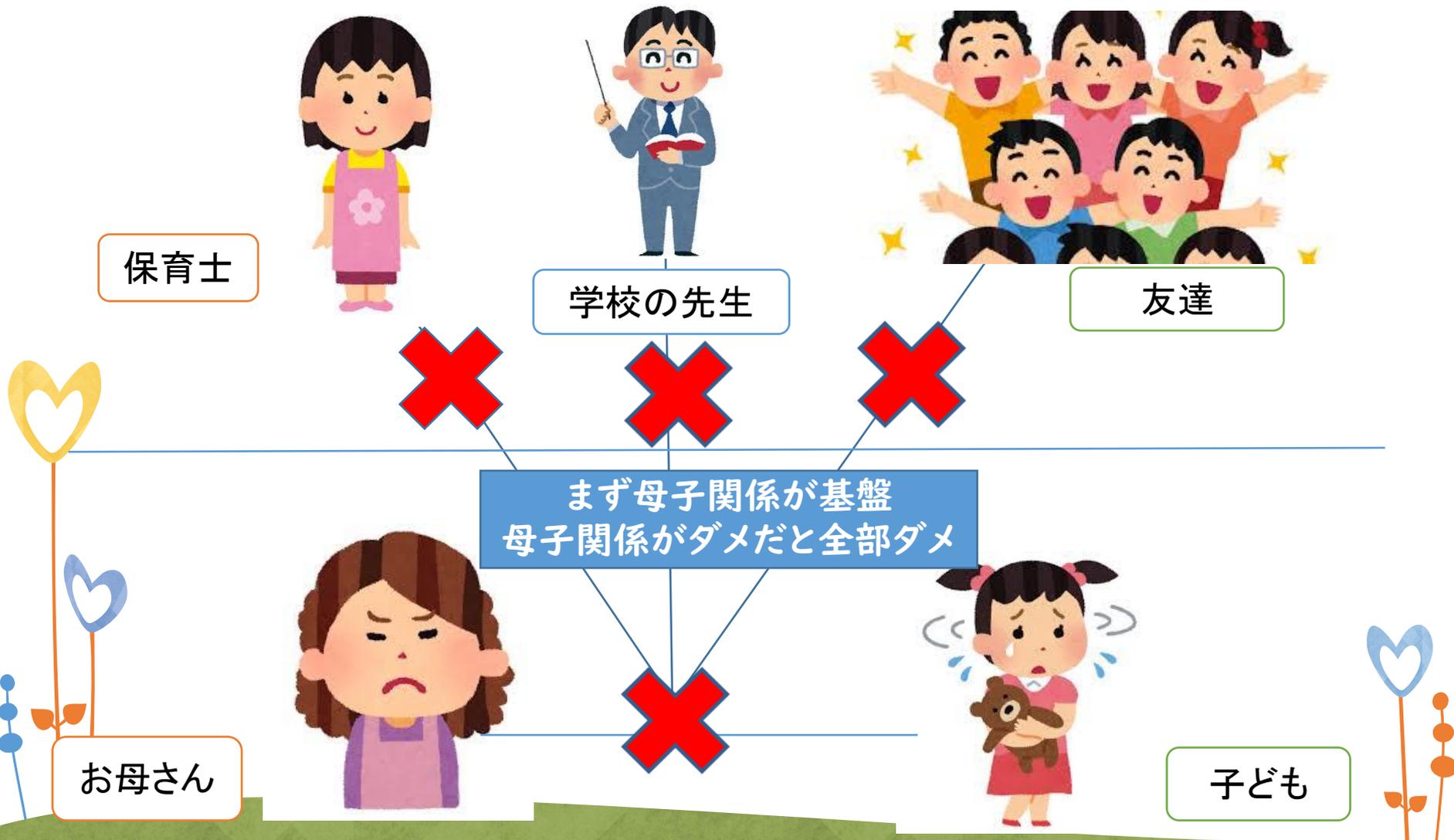
進化生物学の観点からの批判

- 本来、ヒトは血縁関係ではない**複数の他者からなる集団子育て**によって、共同繁殖を進めてきた種である。(チンパンジーは5年、ヒトは毎年産める)
- 他者からの協力が得られない状況では、基本的に子どもの生存や成長はなかった。
- ヒトの子どもは、**親以外の多様な大人**からのケアを受け入れて成長・発達するメカニズムを生得的に備えている。
- たった一人の人(特に母親)との関係が子どもの発達の道筋を決定するわけではない。

アタッチメントの階層的組織化モデル



アタッチメント階層的組織化



独立並行的組織化



アタッチメント

アタッチメント

アタッチメント



アタッチメント

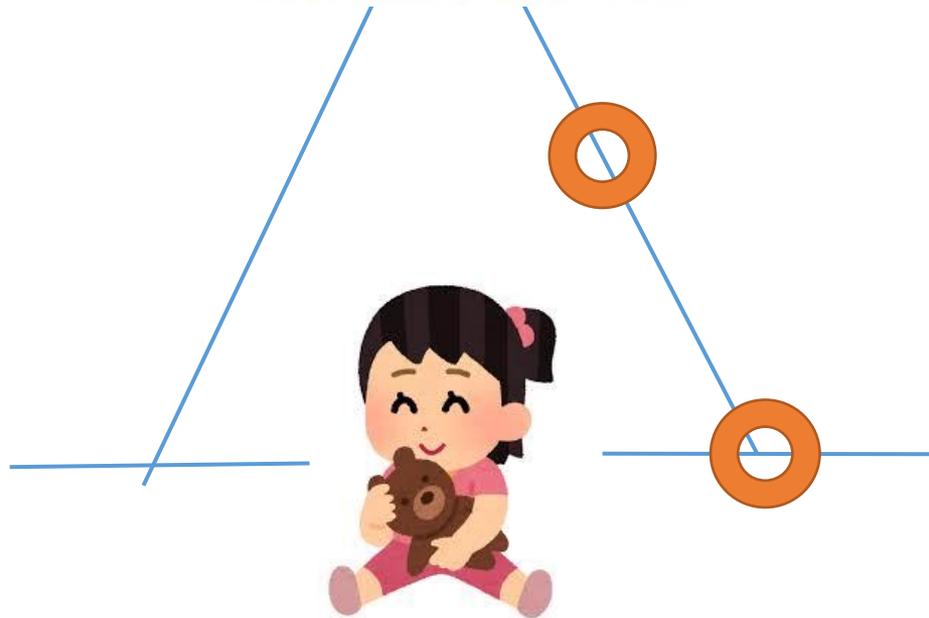
アタッチメント



独立並行的組織化の実証研究



9歳時点



12か月と48か月の時点のアタッチメントを測定

子どもは、養育者以外の大人とアタッチメントを構築できる

- 子どもが、家庭外において、安定したアタッチメントを形成することでも、自律性や、自他に対する基本的信頼感を十分身に付けることができる。
- それらを基に、生涯にわたって、心理社会的適応ができる。
- **子どもの周りに、セーフティネットを多層的かつ柔軟に張ることが重要。**

子どもの養育における 親以外の大人の重要性



アタッチメント対象者の条件

- 身体的・情緒的ケアを十分に与えること
- 子どもの生活において連続的・かつ一貫した存在であること
- 子どもに対して情緒的投資を行うこと

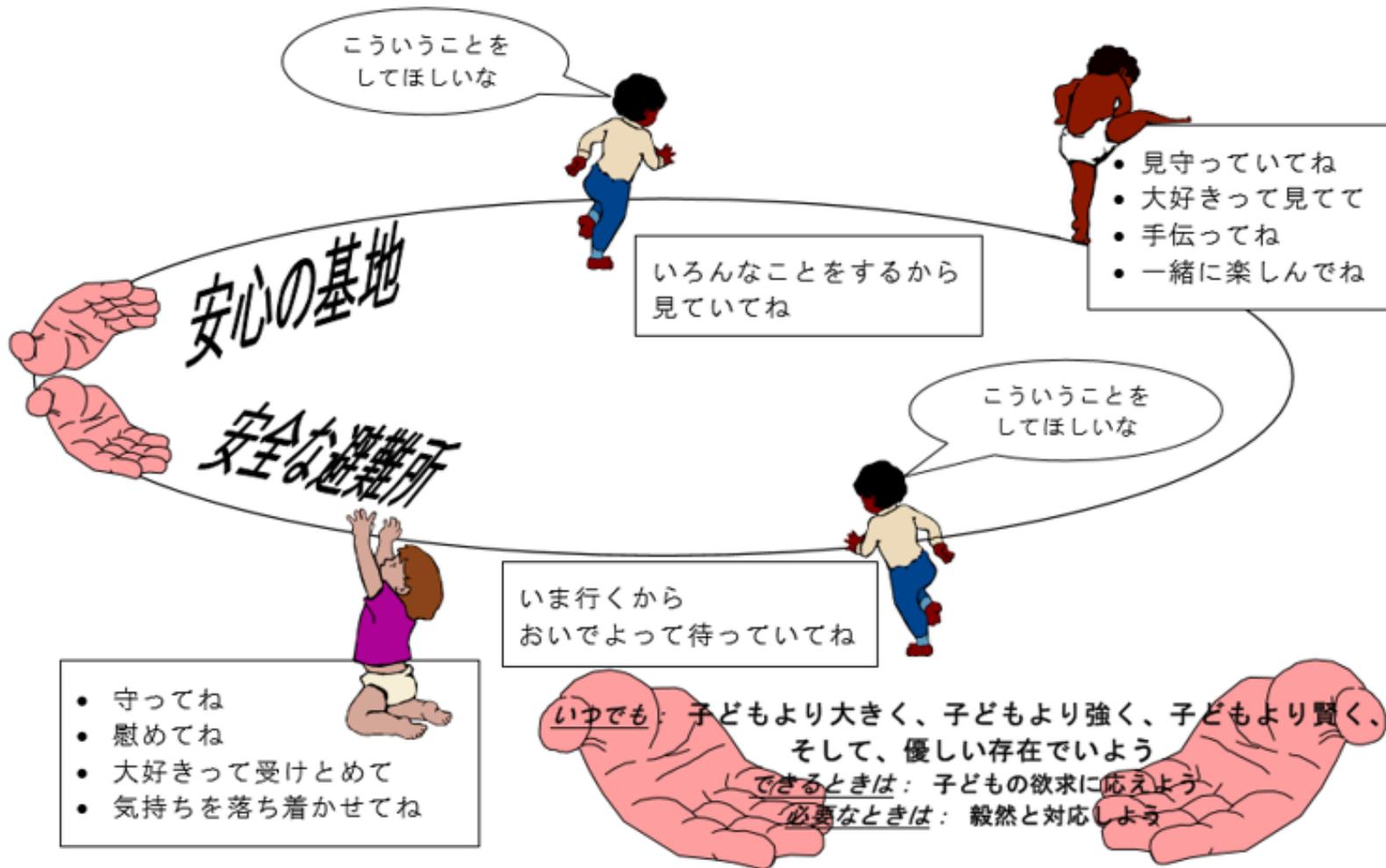
<情緒的投資>

「今、つらい思いをしても、子どもが何か身に着けてくれたら嬉しい」「今の苦勞が子どもの発達につながれば自分にとってとてもいいことだと思えること」

安心感の輪

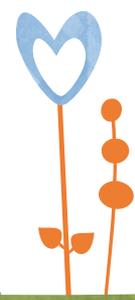
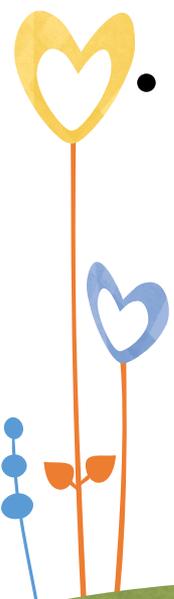
Circle of Security®

子どもの欲求に目を向けよう



情緒的利用可能性

- **子どもを主体**として考える情緒的利用可能性
- 養育者はいつもどっしりと構え、子どもが求めてきた時に、子どもにとって、**情緒的に利用可能な存在**であればよい。
- 安心の基地、安全な避難所をイメージして、子どもを見守る。



アタッチメントと子育て

- 子どもがシグナルを送ってきたらタイミングよく応え、弱って帰ってきたら、子どもの気持ちに寄り添い、情緒的な燃料を補給する。
- 完璧ではなく「ほどほどの子育て」
- 子どもは養育の「共同パートナー」
- 育つ主体である子どもから、いろいろ教わりながら、子どもを育てていく。

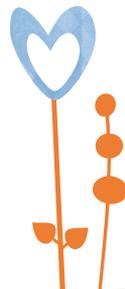
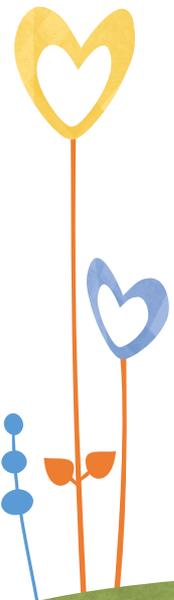
自他に対する基本的信頼の基礎形成

- 自分は、困った時に、求めれば助けてもらえる存在。
- 世の中は、自分を受け入れてくれる。

- 「くっつく」ことによる自律
- 子どもは誰かと一緒のとき一人になれる— (ウィニコット)
- あそこに行けば助けてもらえるという見通し、いざとなればくっつけるという確信が自律を支える。
- 誰か(特定の養育者)の内在化

保育者とのアタッチメント

- 母親とのアタッチメントよりも、最初に関係した保育者とのアタッチメントの方が、その後の特に保育所や学校等における教師や仲間との関係、および社会的適応性全般を予測する。



保育者とアタッチメント（愛着）

- 生後12か月、48か月の子ども
- 母親と子どもの愛着と保育士と子どもの愛着を測定。
- 9歳時点、子どもと教師や仲間との関係を測定。

<結果>

- 母子関係は、9歳時点での先生や仲間との関係について関連していない。むしろ乳児期の保育者との愛着関係が9歳時点での先生との関係に関連していた。

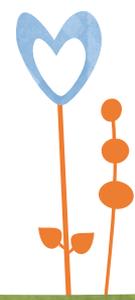
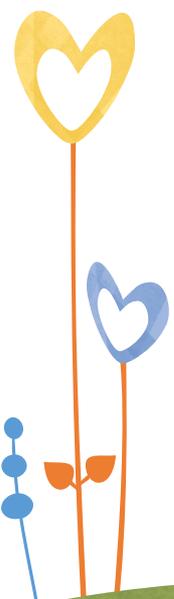
保育者と子どもとのアタッチメントの重要性

- 生後12か月48か月時において測定された、安定的な関係を保育者との間で形成した子どもは、文脈的に連続性のある学校で、そこでの中心的な大人である先生との関係が良好であった。
- 親への愛着は、子どもにとってその後すべての対人関係の雛形になるものではなく、教師との関係は、原則的に親への愛着とはかなり独立的に構成される可能性がある。

アタッチメントだけでは語れない 子どもと養育者との関係

相互的なやり取り（相互作用）

- アタッチメントは子どもがストレスを感じて求めてくる関わり。
- 「楽しくてもっと遊んで」とか、「もっと知りたい」といった時にも養育者を求める。
- ストレスではなく、**プラスの感情を経験している時に求める関わり。**
- 子どもはポジティブな気持ちで養育者に遊んでもらったり、話を聴いてもらって満足感を得る。**こうした相互作用も、子どもの発達にはとても重要。**



アタッチメントだけでは語れない 子どもと養育者との関係

温かく優しい雰囲気

- アタッチメントや相互的やり取りは、子どもが求めてきた時に、タイミングよく応えるやり取り。
- しかし、子どもと直接やり取りしなくても、温かく優しい雰囲気も醸し出すことで、**子どもは安心の空気に守られながら、自分はここでいろいろなことをして過ごしていいんだという感覚の中で生活することができる。**
- **日常生活全般にわたる温かい感情的な雰囲気も子どもの発達にとっても重要。**



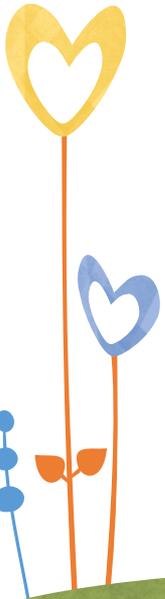
発達課題と心理的危機

エリクソン心理社会的発達

	発達課題	心理的危機	発達のテーマ
乳児期	基本的信頼感	基本的不信感	希望
幼児期前期	自律	恥と疑惑	意志
幼児期後期	積極性	罪悪感	目的
児童期	勤勉性	劣等感	有能感
思春期・青年期	自我同一性	役割拡散	帰属感
成人期	親密性	孤独	愛
壮年期	世代性	自己停滞	世話(ケア)
老年期	自我の統合	絶望	知恵

人間の8つの発達段階 ライフサイクル (エリクソン)

- それぞれの発達段階には、発達課題と心理的危機が拮抗している。
- このポジティブな力とネガティブな力の拮抗は、生涯にわたって続き、ポジティブな力の方が勝るような体験・経験をすることによってよりよく生きていく力を蓄える。



乳児期

- 実際に、赤ちゃんのすべての欲求を満たすことは不可能（**不信**）
- 赤ちゃんの危機を養育者が救ってくれて、欲求を満たしてくれる。
- 赤ちゃんと養育者との間に**基本的信頼**関係が育まれ、「**希望**」といった力が定着していく。
- 時間に対する信頼、世界に対する信頼、自分に対する信頼）
- 希望を心に宿すことが、思春期の自己嫌悪を乗り越えることに繋がる。

乳児期の関係性の危機

- 赤ちゃん側の要因
- 未熟児や言動や表情を発信する力が弱いなど
- 養育者側の要因
- 知的な問題、心身的な問題、虐待体験などがある
- 相互交流が阻害され、よい関係性がもてなくなってしまうこともある。

幼児期前期

- 語彙爆発 自己主張 排便・排尿の自律
- 「イヤイヤ期」「ジブンでやりたい!」
- 水もこぼす、ズボンもはけない、だけどジブンデ!。
- 赤ちゃんが「失敗するかも??」、「怒られるかも??」という「**恥や疑惑**」を持ちつつも、自ら「自分でやってみる」、「出来た!」といった「**自律性**」を持てるようになることがテーマ。
- 「恥や疑惑」よりも「自律性」の方が勝って体験することによって、「**意志**」が備わる。

幼児期後期

- 「あれもしたい、これもしたい」と、自分で考え、行動する「**積極性**」がでてくる。しかし、善悪、社会のルールがわからないので、注意、叱責されることもある。
- 「**積極性**」によって、「うまかった!」、「自分の思い描いた通りになった!」
- 「うましくない...」、「怒られた... (怒られるかも?)」といった体験により、「**罪悪感**」を持つことも。
- 「罪悪感」よりも「積極性」の方が勝って体験することによって、「**目的** (を持つこと)」という力が備わる。

壮年期の発達のテーマ・世話（ケア）

- 『ケアの本質－生きることの意味』ミルトン・メイヤロフ
- **他者の成長への専心をケア**と呼び、このケアという行為は、**自らの成長や自己実現**につながる創造的営みである。
- 次の世代を支え、育み、次世代の人生にも責任を持ち、良きものを次世代に託していくといった「世代性」の方が上回ると、「世話（ケア）」という、より良く生きていくための力が備わる。

まとめ



- 本日の感想・印象に残った内容など一人ずつお話をしてもらい終了

引用・参考文献



- 「アタッチメントと臨床領域」数井みゆき・遠藤利彦 2007年 ミネルヴァ書房
- 「二つの社会に生きる子ども」遠藤利彦2015年「発達143号」ミネルヴァ書房
- 「赤ちゃんの発達とアタッチメント」遠藤利彦2017年ひとなる書房
- ことばを育てる暮らし方 中川信子 保健同人社
- インリアルアプローチ 竹田契一・里見恵子 日本文化科学社
- 語りかけ育児 サリー・ウオード 小学館
- 言葉・非認知的な心・学ぶ力 日本赤ちゃん学協会編 中央法規
- ことばの遅れのすべてがわかる本 中川信子 講談社
- 育児担当制による乳児保育 子どもの育ちを支える保育実践 西村真美
中央法規出版